

## 文末の「ものだ」「ことだ」とそれに対応する中国語に関する研究：文末の「のだ」との比較を中心に

范, 碧琳  
九州大学大学院比較社会文化学府：博士後期課程

松村, 瑞子  
九州大学大学院言語文化研究院：教授

<https://doi.org/10.15017/1470436>

---

出版情報：言語文化論究. 33, pp.69-85, 2014-10-14. 九州大学大学院言語文化研究院  
バージョン：  
権利関係：



# 文末の「ものだ」「ことだ」とそれに対応する中国語に関する研究

## ——文末の「のだ」との比較を中心に——

范 碧琳<sup>1</sup>・松村 瑞子

### 1. はじめに

文末の助動詞<sup>2</sup>の「ものだ」「ことだ」「のだ」は様々な意味、用法、機能を持っている。三者は現代日本語において頻繁に用いられ、組成が類似しているだけでなく、意味、用法の面でも類似している。しかし、外国人学習者にとって、日本語のこれらの助動詞は一つの難点である。特に、中国語には「ものだ」「ことだ」「のだ」と類似する文末表現形式がないため、中国人学習者はこれらの助動詞を学習する時、なかなか理解できず、誤用もしばしば見られる。范（2011）は「のだ」と中国語との対応関係を明らかにすることを通して、「のだ」の意味と用法を考察したが、「ものだ」「ことだ」と中国語との対照、「ものだ」「ことだ」「のだ」三者間の比較は行っておらず、課題として残った。そこで、本論文では、「ものだ」「ことだ」「のだ」に対応する中国語の表現を通して、これら三形式を比較し、考察していく。

### 2. 先行研究と本論文の位置づけ

「ものだ」「ことだ」「のだ」については、これまで多くの先行研究がある。「ものだ」に関しては、寺村秀夫（1981, 1984）、靱山（1992）、坪根（1994）など、「のだ」に関しては、寺村（1984）、田野村（1990）、野田（1997）などが代表的な研究である。「ことだ」に関しては、主に「ものだ」と比較した研究が多い。「ものだ」「ことだ」「のだ」三形式それぞれに関する先行研究は膨大であるため、本論文は主に三形式を比較した先行研究やこれら三形式と中国語との対照を扱った先行研究を概観する。

まず、当該三形式を比較した先行研究のうち、野田（1995）は、行為の実行が望ましいということとあらかず当為的な用法における「ものだ」「ことだ」「のだ」の異同を考察したものである。

続く野田（1997）は、「のだ」をスコープの「のだ」とムードの「のだ」の二つに分けながら考察したものである。その中でムードの「のだ」は、対事的（必ずしも聞き手を必要としない）ムードのみを担うか、対人的（必ずしも聞き手を必要とする）ムードも担うかという軸と、事態Qが状況や先行文脈Pとの関係づけを示すか示さないかという軸とで4種類に分類した。それは、表1（野田1997：67）のようにまとめられる。

野田（1997）は、また、「のだ」を統括的に考察した上で、対事的「のだ」と「ことだ」「ものだ」の違い、対人的「のだ」と「ものだ」の違い、命令を表す対人的「のだ」と「ものだ」「ことだ」の違いについても論述している。

一方、「のだ」と中国語との対照研究は行われてはいるが、未だに数が少ない。とりわけ、「もの

表1 ムードの「のだ」の分類

	対事的ムードの「のだ」	対人的ムードの「のだ」
関係づけ	pの事情・意味としてQを把握する	pの事情・意味としてQを提示する
非関係づけ	Qを(既定の事態として)把握する	Qを(既定の事態として)提示する

だ」「ことだ」と中国語との対照研究は管見の限りない。

そのような状況の中、杉村(1982)は「のだ」と中国語の「是……的」の対照を行ったものである。杉村(1982:162)によれば、「是……的」は「状況解說的用法が余り発達しておらず、もっぱら特定成分の指定強調という面で活躍する」ものだという。また、「翻訳ものなどに当たって見ても、状況解說的「Sのだ」と「是S的」は意外なほど対応しない(杉村1982:166)と述べ、「状況解說的「のだ」には「是S的」から「是」「的」を取り去った「S」が最もよく対応し、次には「的」だけを取った「是S」である(杉村1982:166)と指摘している。

また、井上(2003)は、「のだ」文と“的”構文の対照研究を行い、この二つの構文の類似点と相違点を分析した上で、両構文の基本的相違は「二つの事態の関係づけ」と「一つの事態の内容限定」であると指摘した。「のだ」文は「ある事態 $\alpha$ の背後にある別の事態 $\beta$ を提示する」文である。つまり、「二つの事態を関係付ける」という点に「のだ」文の基本的な性質があるといえる(井上2003:267)と述べ、“的”構文は「「事態 $\alpha$ の内容をより限定して再提示する」文である(井上2003:268)と論じている。

さらに范(2011)は野田(1997)の分類に従い、スコープの「のだ」およびムードの「のだ」と中国語の対応関係を観察・分析し、次の四点を明らかにした。(イ)スコープの「のだ」と「是……的」が対応するとき、スコープの「のだ」に前接する部分は動詞文でなければならない。また、スコープの「のだ」に前接する部分は既然の事態でなければならない。(ロ)スコープの「のだ」に前接する部分が動詞の現在形、動詞の否定形、アスペクト接辞、様態を表す形容詞などであるときには「是……」が対応する。(ハ)スコープの「のだ」に対応する中国語文の中で「是」も「的」も用いない文は少ないが、それには日本語と中国語の品詞の違い、表現形式の違いが関わっていると思われる。(ニ)ムードの「のだ」のほとんどは「是」も「的」も用いない無標識の文に対応するが、説明、強調、告白などの用法の中には「是……的」と「是……」に対応するものがある。

日本語の文法研究では、「ものだ」「ことだ」「のだ」に関する研究は非常に多いが、これら三形式と中国語との対照研究はまだ数が少ない。特に、「ものだ」「ことだ」と中国語との対照研究は、先述のように、いまだ行われていないため、本論文はその解明を目指す。具体的には、先行研究と范(2011)の研究結果を踏まえ、「ものだ」「ことだ」に対応する中国語の表現にはどのようなものがあるか、また、それらの出現状況を明らかにする。さらに、「ものだ」「ことだ」「のだ」のいずれにも共通の用法に対応する中国語の表現を分析、考察する。

### 3. 研究データ

本論文は実例による分析と考察を行うため、『中日対訳コーパス(第一版)』(中国北京日本学研究中心製作)より収集した「ものだ」「ことだ」「のだ」の用例と対訳の中国語の用例をデータとする。検索の資料とするのは日本文学作品22冊とその訳本を合わせて44冊のテキストである。

## 4. 「ものだ」に対応する中国語

文末の助動詞の「ものだ」は「一般性」「解説・説明」「回想」「感慨・驚き」「当為」など様々な意味と用法を持っている<sup>3</sup>。収集された「ものだ」の用例は例(1)～例(6)のようにほとんどが無標識の中国語文<sup>4</sup>と対応していた。

- (1) a. 「もっとも老人になれば別だ。老人になると、夫婦というものはよく相手を労るものだ。他にだれも相手にしてくれないから、お互いに労りの取引きをする」(井上靖『あした来る人』)(一般性)  
 b. “当然老年人除外。人一上了年岁，夫妇就成了相互安慰的伴侣。再没有其他人安慰自己，只好两个人安慰来安慰去。”(井上靖《情系明天》)
- (2) a. 奥さんはおやおやと云って、仕切りの襖を細目に開けました。洋燈の光がKの机から斜にぼんやりと私の室に差し込みました。Kはまだ起きていたものと見えます。(夏目漱石『ころも』)(解説)  
 b. 夫人‘喂、喂’地叫了两声，把隔壁的隔扇打开一条窄缝。一束油灯光从K的桌上朦朦胧胧地斜射在我的房间中。K好象还没睡。(夏目漱石《心》)
- (3) a. その時分は一つ室によく二人も三人も机を並べて寐起したものです。Kと私も二人で同じ間にいました。(夏目漱石『ころも』)(回想)  
 b. 那时候，我们常常是两、三个人把桌子排起来，睡在一间屋子里。K和我就住在一起。(夏目漱石《心》)
- (4) a. 寺大工の家庭の事情は里子にはわからないにしても、よくも、まあ、小さい子をこのような寺へ出したものだと考えざるを得ない。(水上勉『雁の寺』)(感慨・驚き)  
 b. 修建寺庙的木匠家庭里的情况，里子虽然不了解，但是竟把这样小的孩子送进寺院，显然是迫不得已的。(水上勉《雁寺》)
- (5) a. それから車を備って、中学校へ来たたら、もう放課後で誰も居ない。宿直は一寸用達に出たと小使が教えた。随分気楽な宿直がいるものだ。(夏目漱石『坊ちゃん』)(感慨・驚き)  
 b. 我雇了车，到达中学校，已经放学了，没有一个人，校工告诉我：“值班的外出办事去了。”这个值班的真够舒服的。(夏目漱石《哥儿》)
- (6) a. 「ひどいもんだな。本当に赤シャツの策なら、僕等はこの事件で免職になるかも知れないね」(夏目漱石『坊ちゃん』)(感慨・驚き)  
 b. “真厉害，要是红衬衫真的在捣鬼，我们很可能因此而被免职。”(夏目漱石《哥儿》)

一方、当為を表す「ものだ」には中国語との対応関係が見られた。収集した「ものだ」の用例には、当為を表す「ものだ」の例は9例あったが、そのうち、5例は以下の例(7)と例(8)のように中国語の「应该、该」、2例は例(9)のように「得」に対応し、残り2例は「要」に対応していた。

- (7) a. 私は鞆の中から卒業証書を取り出して、それを大事そうに父と母に見せた。証書は何かに押し潰されて、元の形を失っていた。父はそれを鄭寧に伸した。  
 「こんなものは巻いたなり手に持って来るものだ」(夏目漱石『ころも』)  
 b. 我从皮包中取出毕业证书，郑重其事地把它拿给父亲和母亲看。证书被什么东西压皱，已经不是原来的样子了。父亲小心地把它展开。“这样的东西应该卷好，拿在手里的。”(夏目

漱石《心》)

- (8) a. 母は私の想像したごとくそれを読まなかった。「そうかい、それじゃ早く御出し。そんな事は他が気を付けないでも、自分で早く遣るものだよ」(夏目漱石『ころ』)
- b. 正如我预料的, 母亲没让我念。“是么? 那就赶快发吧。这种事就是没人提醒, 自己也该早办的。”(夏目漱石《心》)
- (9) a. 「そりゃ不可」と大日向は笑いながら言葉を添えた。「こういう時には召上るものです。真似でもなんでも好う御座んすから、一つ御受けなすって下さい」(島崎藤村『破戒』)
- b. “那可不行。”大日向笑着插话说, “今天你得喝, 哪怕是意思意思, 也得接过这一杯。”(島崎藤村《破戒》)
- (10) a. 「女の子はもう少し上品に煙草を消すものだよ」と僕は言った。「それじゃ木樵女みたいだ。無理に消そうと思わないでね、ゆっくりまわりの方から消していくんだ。そうすればそんなにくしゃくしゃにならないですむ。」(村上春樹「ノルウェイの森」)
- b. “女孩子熄烟要熄得文雅一点。”我说, “那样熄, 活象砍柴女。不要硬碾, 从四周开始慢慢熄, 那就不至于把烟头弄得焦头烂额的。”(村上春樹《挪威的森林》)

「ものだ」の「当為」の意味は、「ものだ」の「一般性」という意味論的意味とコンテクストが組み合わされることにより、語用論的に導き出されるものと考えられる。例えば、例(6a)の「ものだ」は「卒業証書は普通巻いたなり手に持って来る」という一般的な通念を提示することにより、聞き手に「あなたもそうすべきだ」ということを促したものである。范(2010b: 277)は「一般性」を表す「ものだ」が「当為」と解釈される語用論的条件を次の三つにまとめた。

- ① 「ものだ」が前接する事象に「実行可能な事態」を含んでいるもの。
- ② 「実行可能な事態」が一般的に望ましいもの、或いは文脈において話し手が一般的に望ましいと判断するもの。
- ③ 「実行可能な事態」に関し、聞き手が当事者であり、話し手が聞き手に当該事態を実行してほしいという願望が含まれているもの。

以下の例(11)は「一般性」を表す「ものだ」で、例(12)の「ものだ」は以上の語用論的条件に満たしている文脈で発話され、「当為」の意味が導き出されている。

- (11) 母「今日の道德の授業では何を勉強したの？」  
子「子どもはお年寄りを敬うものだって先生が言ってたよ」
- (12) 母「ほら、たくさんお年寄りの方が乗っていらしたわよ」  
子「ママ、ぼく座っていたいよ」  
母「子どもはお年寄りを敬うものだって学校で習ったでしょ？」 范(2010b: 276)

例(7)～例(10)の「ものだ」も以上の語用論的条件を満たした文脈で出現したものであり、「ものだ」の「一般性」の意味から「当為」の意味が導き出されたものと言える。

しかし、このような「ものだ」に対応した中国語表現を見ると、日本語の「ものだ」のような語用論的なものは見られない。「应该、该」は助動詞であり、主語と述語である動詞の間に置かれ、(道理・人情などからして)「するのが当然である」「すべきである」という意味を表している。また、

同じく「得」も助動詞であるが、これは主に話し言葉で用いられ、「(やむをえず) しなければいけない」「…する必要がある」という意味を表す。さらに、「要」も助動詞であり、「(必要・義務的に) しなければいけない」「…する必要がある」という意味を表す。以上のように、日本語の当為を表す「ものだ」に対応する中国語の表現はみな語彙的に当為の意味を表す助動詞であり、日本語の「ものだ」のようにその当為の意味が語用論的に導き出されたものではない。

一方、今回収集された「感慨・驚き」を表す「ものだ」は80例であった。本論文は守屋(1989)を参考し、「感慨・驚き」の「P-Q ものだ」をP-Qの種類によって、次のA-Dの四つに分類する。

- A. PもQ(となった、変わったなど) ものだ<sup>5</sup>。
  - B. Pも/は(よく)Q(できる/できた、する/したなど) ものだ。(例4a)
  - C. Pも/がQ(ある/あった、いる/いたなど) ものだ。(例5a)
  - D. (Pも)Q(ひどい、気の毒な、困ったなど) ものだ<sup>6</sup>。(例6a、13a、15a)
- ① P-Qが変化の結果を表す文。
  - ② P-Qが、ふつうならできない(しない)行為などがAにおいて可能であったり、実現しているという事実を表す文。
  - ③ P-Qが、ふつうなら存在しないようなAが現に存在しているという事実を表す文。
  - ④ 特異な事実に接しての感情・感慨を述べる文。

坪根(1994:75)は「感情・感慨を表す用法は「～が一般的だ。それなのに～はそうではない」というように一般性に対して、それに反するという気持ちを表した、つまり、一般性の裏返しの表現になっていた」と指摘している。収集した日本語の「感慨」を表す「ものだ」の80例には、Aは0例、Bは28例、Cは12例、Dは37例で、残り3例は(15a)のような「一般性」を表す「ものだ」の構文を持っているものである。「感慨」を表す「ものだ」に対応した中国語文には、59例は例(4b)(5b)(6b)のように「ものだ」に対応する表現を持たない無標識の文であった。また、16例は例(13b)のように強い感情を表す感嘆符「！」を伴ったもので、具体的に対応する中国語表現が現れたのは5例のみで、それらは例(14b)(15b)に見られるような語気助詞の「了」、あるいは、例(16b)(17b)に見られるような語気助詞「呀」、「哇」であった。このうち、語気助詞「了」は副詞の「太」などと呼応し、性質や状態の程度を強調する。「感慨」を表す「ものだ」に対応した「了」の3例はいずれも「太……了」という構成であった。なお、2例のみ確認された語気助詞「呀」<sup>7</sup>、「哇」<sup>8</sup>は感嘆を表す「啊」の一種の音便を表記するもので、「啊」に相当する。「太……了」に対応した3例の日本語の「ものだ」の「感慨」の意味は一般的な真実に誘発されて、つまり「一般性」という意味から語用論的に解釈されたものである。例えば、例(15a)は「芋ばかり食って黄色くなっている」状況から「教育者はつらい」という一般的な真実を再認識し、感慨の意が生じたのである。しかし、この3例の日本語の「ものだ」が対応する中国語の表現「太……了」からこのような語用論的な解釈が見られなかった。

- (13) a. 「これは一部ですよ。この二三日のうちに全部梱包会社へ渡さなければならないんです。こんなのが三十個程あります。全部で二トンもあるんですよ」  
「ぜいたくなものですな」(井上靖『あした来る人』)
- b. “这不过是一部分，两三天内必须全部交到梱包公司。这种样式的有三十多个，总共有两吨重。”  
“这么大的花费！”(井上靖《情系明天》)

- (14) a. 君大丈夫かいと赤シャツは念を押した。どこまで女らしいんだか奥行がわからない。文学士なんて、みんなあんな連中ならつまらんものだ。(夏目漱石『坊ちゃん』)  
 b. 红衬衫又叮嘱了一句。这家伙的一副女人腔，看来修行真不浅哩。如果文学士都成这副样子，那太糟糕了。(夏目漱石《哥儿》)
- (15) a. 天麩羅蕎麦を食っちゃならない、団子を食っちゃならない、それで下宿に居て芋ばかり食って黄色くなっているなんて、教育者はつらいものだ。(夏目漱石『坊ちゃん』)  
 b. 吃炸虾面不成，吃团子也不成，呆在寓所里净吃芋薯，到头来非弄得面黄肌瘦不可。做一名教师也真太辛苦了。(夏目漱石《哥儿》)
- (16) a. いや、これは、おれの足の臭いだ……そうしてみると、急に親しみがわいてくるのだから、おかしなものだ……(安部公房『砂の女』)  
 b. 不，这是咱的脚臭丫……这么一想，心理竟忽然涌起阵阵亲切感，真奇怪呀……(安部公房《砂女》)
- (17) a. 一とまず、納得すると、なにはさておき、まずタバコだ。一週間、よくも辛抱できたものだと思う。(安部公房『砂の女』)  
 b. 暫且想通了，闲话休提，先来抽口烟吧。一星期了，可真够受哇。(安部公房《砂女》)

収集した実例を基に、文末の「ものだ」に対応する中国語をまとめると次の表2のようになる。

表2 「ものだ」に対応する中国語表現の出現数と出現率

	対応する形式のない無標文	应该	要	得	太……了	！	啊(呀哇)	計
一般性	84 (34.3%)							84 (34.3%)
回想	68 (27.8%)							68 (27.8%)
解説	4 (1.6%)							4 (1.6%)
感慨・驚き	59 (24.1%)				3 (1.2%)	16 (6.5%)	2 (0.8%)	80 (32.6%)
当為		5 (2.0%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)				9 (3.7%)
計	215 (87.8%)	5 (2.0%)	2 (0.8%)	2 (0.8%)	3 (1.2%)	16 (6.5%)	2 (0.8%)	245

「当為」「感慨・驚き」を表す「ものだ」には中国語との対応関係が見られたが、「一般性」「解説・説明」「回想」を表す「ものだ」には中国語との対応関係が見られなかった。「一般性」を表す「ものだ」に対応した中国語文は例(1b)のように、「ものだ」に対応する表現を持たない無標識の陳述文(主に「主語+述語+(目的語)」という構成)になっている。「ものだ」は「多く」、「大概」、「普通」などの副詞と共起することが多い。これらの副詞が「ものだ」と共起する時、中国語訳文では以下の例(18b)(19b)のように、「一般(一般的に)」「大体上(大概)」などの副詞が出現している。

(18b)「妇女嘛，一般都是这个样」と(19b)「我想人大体上都一样」の中国語文は一般的な傾向を示しているが、それは日本語の「多く」「大概」が語彙的に対応する中国語の副詞に訳された結果表されたものと言える。

- (18) a. 「女というものは、多くああしたものだ」と自分で自分に言って見た時は、思わずあの迷信深い蓮華寺の奥様を、それからあのお志保を思出すのであった。(島崎藤村『破戒』)  
 b. “妇女嘛，一般都是这个样。”丑松自言自语地说。这时，他不禁想起了莲华寺那位特别迷信的师母，还有那位志保姑娘。(島崎藤村《破戒》)
- (19) a. 人間は大概似たもんだ。腹が立てば喧嘩の一つ位は誰でもするだろうと思ってたが、この様子じゃ滅多に口も聞けない、散歩も出来ない。(夏目漱石『坊ちゃん』)  
 b. 我想人大体上都一样，生起气来谁都能吵一架。照这样下去，我就很少能开口讲话，或出外散步了。(夏目漱石《哥儿》)

「解説・説明」「回想」を表す「ものだ」に対応した中国語文は、例(2b)(3b)のように、「ものだ」の表すモダリティが形式的に明示されない無標識の陳述文(主に「主語+述語+(目的語)」という構成)になっている。

以上をまとめるならば、中国語には「ものだ」に合致する単一の表現がないため、それに対応する中国語は、結局、当該の「ものだ」の意味内容を反映する助動詞、語気助詞、あるいは、当該の「ものだ」が表すモダリティが明示されない無標識の陳述文になるということである。なお、「感慨」を表す「ものだ」に対応する中国語の無標識の文は6.2節でさらに詳しく考察する。

## 5. 「ことだ」に対応する中国語

多くの先行研究で指摘されているように、助動詞の「ことだ」は話し手が相手に対して忠告をする際に用いられる。野田(1997:228)によると、「忠告の「ことだ」は、聞き手が悪い状況にとどまらないため、陥らないためには、その行為を実行することが必要、重要だという話し手の判断を表している」。しかし、高梨(2006:16)は、「ことだ」が「聞き手のほか、第三者、不特定多数、さらに話し手の行為にも用いることができる」と述べている。また、「行為者は必ずしも聞き手に限らないが、その行為者が、目的を達成したり悪い状況にとどまったりしないために、最も重要な行為を提示するというのが、「ことだ」の意味だと考えられる。助言や忠告は、行為者が聞き手である場合に結果的に帯びる機能と捉えるべきであろう」と論じている。本論文は高梨(2006)に従い、「行為者が、目的を達成したり悪い状況にとどまったりしないために、最も重要な行為を話し手の判断として提示する」というのを「ことだ」の意味論的意味とする。「ことだ」の「当為」の意味は、上記の意味論的意味とコンテクストが組み合わされることにより、語用論的に導き出されるものと考えられる。「ことだ」が「当為」と解釈される語用論的条件をまとめると次の三点になる。

- ① 「ことだ」が前接する事象に「実行可能な行為」が含まれている。
- ② 話し手はその「実行可能な事態」が行為者にとって望ましいと判断している。
- ③ 行為者は当該行為をまだ実現していない。

以下の例(20)は上記の語用論的条件を満たさず、「当為」の意味と解釈されない。

(20) 会社が持ち直すには、まず円が安くなることだ。(坪根 1996 : 56)

例 (21)～例 (25) は以上の語用論的条件に満たしている文脈で発話され、「当為」の意味が導き出されている。例えば、例 (22a) の「ことだ」は「悪い状況にとどまったりしないために、最も重要なのは手術をすることだ」という話し手の判断を提示することにより、聞き手に「あなたはそうすべきだ」ということを促したものである。例 (24a) は話し手の心内発話で、「ことだ」は「目的を達成するために、一番いいのは女の方から愛情を告白させるように仕向けて行くことだ」という話し手の判断を提示することにより、話し手自身に「自分はそうすべきだ」ということを促したものである。

- (21) a. 「伊豆へ行くのもいいが、なるべく早く東京へ帰ることだな」(井上靖『あした来る人』)  
 b. “去伊豆倒可以，只是要尽快返京才好。”(井上靖《情系明天》)
- (22) a. 「妊娠するとね、厭らしい期待に日常が充満するのよ。おかげで、私の生活はぎっしり満ちていて重たいくらいね」  
 僕はポケットから広いハンカチーフを取りだして足を拭った。「手術することだな」(大江健三郎『死者の奢り』)  
 b. “一怀了孕，日常生活中就充满了令人不快的期待。由于这缘故，我的生活被挤得满满的沉重得很。”  
 我从兜里掏出手绢擦脚。“得做人工流产吧。”(大江健三郎《死者的奢华》)
- (23) a. とにかく資本主義を倒すことだ。そのためには革命的青年を育成しなくてはならない。(石川達三『青春の蹉跌』)  
 b. 一句话，资本主义必须打倒。为此必须培育一批革命的青年。(石川达三《青春的蹉跌》)
- (24) a. そこで、康子と二人きりで会ったとき、彼女に対してどういう態度をとるのが一番いいか。それが当面の問題であった。できることならば女の方から愛情を告白させるように仕向けて行くことだ。こちらは言質を与えたり、責任を問われるような行為をしてはならない。(石川達三『青春の蹉跌』)  
 b. 那么，在同康子单独见面时，应该对她采取什么样的态度好呢？这是当前首先要考虑的一个问题。尽可能还是设法让女方主动表白爱情吧，自己决不要许下诺言，让对方来追究责任。(石川达三《青春的蹉跌》)
- (25) a. お前の口ぶりから考えたって、お前は本気で結婚するようなつもりは無いんだろう。……そんなら今のうちに別れることですよ。(石川達三『青春の蹉跌』)  
 b. “你口头上说，没有跟她结婚的意思……既然如此，你现在就跟她分手。(石川达三《青春的蹉跌》)

今回収集された30例の助動詞の「ことだ」には、「当為」を表す「ことだ」が22例ある。「当為」を表す「ことだ」のうち7例は例 (21b) のように中国語の助動詞の「(需)要」に対応していた。また、2例は例 (22b) のように中国語の助動詞「得」、また、同じく2例は例 (23b) のように中国語の助動詞「必須」に対応していた。「必須」は、どうしてもという強制的な意味での「必ず…しなければならない」「…する必要がある」という意味を持つ。以上の中国語の助動詞はいずれも主語と述語となる動詞の間に置かれる。さらに、「当為」の「ことだ」に対応した中国語表現の中には例 (24b) のように文末の語気助詞「吧」に対応したものが1例あった。なお、残りの8例は対応する表現を

持たない無標識の文であった。例(24b)の中国語の語気助詞「吧」は命令文の文末に付加され相談・提案の意を表し、語気を和らげる機能がある。一方、例(25b)は「当為」の「ことだ」が中国語の無標識の命令文に対応したものである。中国語には「文法形式」としての「命令文」はなく、主語が2人称「你/你们」の平叙文をそのまま、あるいは、その主語を省略して使用する。日本語の「ことだ」のようにその当為の意味が語用論的に導き出されたものが観察されなかった。

また、「ことだ」には以下のような感嘆、感慨を表す用法もある。今回収集された用例には、感慨を表す「ことだ」が9例あった。

- (26) 「そりゃあ、どうも。一わざわざ寄って下さったんですか。有難いことですな」(井上靖『あした来る人』)
- (27) 5歳の子どもがよくここまで歩いてきたことだ。(庵他 2001:246)

しかし、(27)のような例に関して、庵他(2001:246)には、「やや古めかしい言い方であり、あまり使われない」と記載している。井島(2012:122)もこの種の「ことだ」は稀であると指摘している。実際今回収集された8例の「ことだ」は全部(26)のような用例で、(27)のような用例はなかった。

次に「感慨」を表す「ことだ」に対応する中国語表現を見ると、その中の3例は(28b)(29b)のように中国語の語気助詞「啊」に対応している。「啊」は様々な意味を表すことができるが、ここでは副詞の「多么(なんと、いかに)」「何等(なんと、いかに)」などと呼応して感嘆の意を表している。また、中には(30b)のように、語気助詞を伴わず感嘆符の「!」で感慨の意を表した例も1例あった。さらに、(31b)のように対応する形式を持たない無標識の中国語に対応したものも4例あった。

- (28) a. 何ともはや怖いことだ。私はもう義弟も義弟の甥も、黒焦げになってしまったと思っている。残念ながら、もう諦めるよりほか仕様がな。 (井伏鱒二『黒い雨』)
- b. 这是多么可怕的事情啊!我想内弟和他的外甥都已经烧焦了,尽管很遗憾,可是,不这样想又有什么办法呢?(井伏鱒二《黑雨》)
- (29) a. 私が広島へ行ったのは、主人と甥の安否を尋ねるためでしたが、広島に着いて駅前の天幕のなかで兵隊さんに聞きまして、広島一中の生徒は全滅したことが分かりました。私は胸が引裂ける思いでした。むごたらしいことだと思いました。(井伏鱒二『黒い雨』)
- b. 我到广岛,是为探听丈夫和外甥的生死存亡才去的。可是到达广岛后,在车站前的帐篷里,向当兵的一打听,得知广岛一中的学生全都完了。我感到心都要炸了。这多么凄惨啊!(井伏鱒二《黑雨》)
- (30) a. 「そりゃあ、どうも。一わざわざ寄って下さったんですか。有難いことですな」(井上靖『あした来る人』)
- b. “那可太谢谢了。——特意来的?真是难得!”(井上靖《情系明天》)
- (31) a. まあ、言ってみれば、清潔の代名詞みたいなもので、防腐の役目はするかもしれないが、腐らせるだなんて、とんでもないことだ……(安部公房『砂の女』)
- b. 是呵,话说回来,沙子象是清洁的代名词哟;所以它该有防腐的作用,说什么给沙子腐烂掉了,真是岂有此理。(安部公房『砂女』)

以上の用例を基に、文末の「ことだ」に対応する中国語をまとめると次の表3のようになる。

表3 「ことだ」に対応する中国語表現の出現数と出現率

	無標識の文	要	得	必須	吧	应该	啊	!	計
当為	8 (26.7%)	7 (23.3%)	2 (6.7%)	3 (10.0%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)			22 (73.3%)
感慨	4 (13.3%)						3 (10.0%)	1 (3.3%)	8 (26.7%)
計	12 (40.0%)	7 (23.3%)	2 (6.7%)	3 (10.0%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)	3 (10.0%)	1 (3.3%)	30

## 6. 「ものだ」「ことだ」と「のだ」の比較

### 6.1 当為的な意を表す「ものだ」「ことだ」と「のだ」の比較

「当為」的な意を表す「のだ」の例は62例あった。それらに対応した中国語表現のうち、17例は「吧」、また、2例は「应该」、残りの43例は対応する表現を持たない無標識文であった。以下の例を見られたい。

- (32) a. 「君が東京へ売られて行く時、ただ一人見送ってくれた人じゃないか一番古い日記の、一番初めに書いてある、その人の最後を見送らんという法があるか。その人の命の一番終りの頁に、君を書きに行くんだ。」(川端康成『雪国』)  
 b. “你给卖到东京去的时候，不是只有他一个人给你送行吗？你最早的日记本开头不就是记他的吗？难道有什么理由不去给他送终？去把你记在他那生命的最后一页上吧。”(川端康成《雪国》)
- (33) a. 「馬鹿やろ。帰っていわれて、黙って帰って来る奴があるか。帰るところがありませんって、がんばるんだよ。そうすりゃ病院でもなんとかしてくれるんだ。(大岡昇平『野火』)  
 b. “你这混帐东西，人家让你归队，你就一声不响地回来了？这种人真少见。你应该说没处可去，和他们争一下嘛。那样医院就能想办法了。”(大岡昇平《野火》)
- (34) a. 「(前略) 離れるなよ。眼鏡ははずせ。君先に行け。右は谷だからな。谷側へ行くんじゃないぞ。さあ行け。一番下まで、ゆっくり行くんだ……」(石川達三『青春の蹉跎』)  
 b. “不要离开我！快摘掉眼镜。你先走。右边是峡谷，不要滑下去，往下，慢慢地滑……”(石川达三《青春的蹉跎》)

田野村(1990:5-8)は、「βのだ」はαを受けて、その「あることがらの背後の事情」や「ある実情」を表すのが基本的機能だとしている。αが具体的に存在するかどうかによって、「のだ」の基本的な意味・用法を二分している。「あることがらαを受けて、αとはこういうことだ、αの内実はこういうことだ、αの背後にある事情はこういうことだ、といった気持ちで命題βを提出する」場合の「のだ」は「背後の事情」を表しているとし、αがその内容の具体性を失った場合の「のだ」は「実情」を表すとしている。「のだ」の「当為」の意味は、「ある実情」を表す」という意味から派生されたものと考えられる。范(2013)は田野村(1990)、佐治(1986b)を参考にして、「のだ」の「ある実情」を表す」という意味論的意味を「ある事象を実情として客体化・既定化し、それを話

し手の判断・主張として提示する」とまとめた。「のだ」の「当為」の意味は、上記の意味論的意味とコンテキストが組み合わせられることにより、語用論的に導き出されるものと考えられる。

田野村(1990:25)は「聞き手が話し手の要求をすでに承知している状況こそ、「のだ」が命令に用いられやすいことになる」と述べている。吉田(1988b:49-50)は決意と命令を表す「のだ」について、「文面上は或る動作を指し示しているだけの表現であるが、その他に、その動作が今はまだ実現されていないこと、その動作を実現させるべき(だと話し手が考えている)人物が話し手(または聞き手)自身であること、などの背景的情報を文脈などから得ることができる。そして、そのような情報が総合されることによって、これらの表現は決意や命令の表現にたり得ているのであると思われる」と述べている。上記の先行研究を参考し、「ある事象を実情として客体化・既定化し、それを話し手の判断・主張として提示する」を表す「のだ」が「当為」と解釈される語用論的条件を次の三つにまとめた。

- ① 「のだ」が前接する事象に「実行可能な行為」を含んでいるもの。
- ② 話し手にとって望ましいと見なす当該行為がまだ実現されていない。
- ③ 「実行可能な行為」に関し、話し手が聞き手に当該行為を実行してほしいという願望が含まれているもの。
- ④ 聞き手が話し手の要求を何らかの形ですでに承知している。

例えば、例(34)の「行くんだ」は「行け」「行け」という命令文の後に出現し、「おまえが行くことが実現すべきことがらとしてすでに定まっている」という判断を提示することによって相手に当該行為の実行を促しているのである。

このような「当為」的な意を表す「のだ」に対応する中国語表現は例(34b)のように無標識の命令文になることが最も多い。この(34b)の中国語文には、日本語の「行け」「行け」「行くんだ」のような文の流れはない。また、「当為」の「のだ」に対応する中国語には例(32b)のように語気助詞「吧」を伴ったものも少なくない。先述したように、この語気助詞の「吧」は命令文の文末に付加され語気を和らげる機能があるとされ、勧告・懇願・誘いなどの文によく用いられる。例(32a)の「行くんだ」は話し手が一度「帰ってやれ」と命令した後で発話されたものであることから、その命令は聞き手に間接的に行為の実行を促す婉曲的なものと解釈される。この「のだ」が、例(32b)が示すように、語気助詞「吧」によって表されているのは、その命令が間接であることを考慮したものと言えよう。日本語の当為を表す「のだ」に対応する中国語の表現は無標識の命令文、語彙的に当為の意味を表す語気助詞、助動詞であったり、日本語の「ものだ」のようにその当為の意味が語用論的に導き出されたものではない。

一方、「ものだ」の「当為」用法は、先にも述べたように、聞き手が「ものだ」の表す当該事態の「一般性」という意味論的意味とそれが発話されたコンテキストから語用論的に導き出されたものであった。中国語には、このような「ものだ」の「当為」用法に直接対応する表現は存在しないため、結局、その訳は意味的に類似した中国語の助動詞を用いたものとなっていた。

最後に、当該行為を実行することが必要、重要であるという話し手の判断を提示することによって、当為的な意を表す「ことだ」に対応する中国語については必要性・義務性の意味を強調した表現が多かった。

## 6.2 「感慨・驚き」を表す「ものだ」「ことだ」「のだ」の比較

今回の資料では、「感慨・驚き」を表す「のだ」が全部で9例収集されたが、いずれも「なんて/なんと(いう)…の(ん)だろう」という形式を取っており、その出典は半分以上が同一の作品(村上春樹『ノルウェイの森』)であった。また、「のだ」「んだ」の形式で「感慨・驚き」を表す用例は見つからなかった。このように、今回の収集例には出典において偏りがあるが、収集された「のだ」のうち、3例は中国語の語気助詞「啊」に対応し、4例は感嘆符「!」、2例は無標識の文に対応していた。

- (35) a. そういう信頼感が存在する限りまずあのボンッ!は起らないのよ。嬉しかったわ。人生ってなんて素晴らしいんだらうって思ったわ。(村上春樹『ノルウェイの森』)  
 b. 只要存在这种信赖感, 那‘砰’的一声就不会发生。我是那么高兴, 心想人生是多么美好啊! (村上春樹《挪威的森林》)
- (36) a. これはなんという完全な肉体なのだらうと——僕は思った。直子はいつの間にこんな完全な体を持つようになったのだらう? そしてあの春の夜に僕が抱いた彼女の肉体はいつたどこに行ってしまったのだらう? (村上春樹『ノルウェイの森』)  
 b. 这是何等完美的肉体啊——我想。直子是何时开始拥有如此完美肉体的呢? 那个春夜我所拥抱的她那肉体何处去了呢? (村上春樹《挪威的森林》)
- (37) a. 鋏の鉤は、がっちり俵に、咬みついてくれたのだ。なんて間がいいのだらう!(安部公房『砂の女』)  
 b. 剪刀钩子死死地咬住了草包, 怎么会这样顺利的! (安部公房《砂女》)
- (38) a. 調和って、なんて美しくて素晴らしい事なんだらうと、いささか驚き、呆然とした形だった。(太宰治『斜陽』)  
 b. 调和, 这是多么优美而绝妙的事情啊, 使我不由得有点惊讶。(太宰治《斜阳》)
- (39) a. 「それはまあともかくね、私思ったのよ、あのとき。これが生まれて最初の男の子とのキスだったとしたら何て素敵なんだらうって。(後略) (村上春樹『ノルウェイの森』)  
 b. “是不是先不管。当时, 我这么想来着: 假如这是生来同男孩子的第一个吻, 那该有多棒!” (村上春樹《挪威的森林》)

感慨・驚きを表す「ものだ」「ことだ」「のだ」に対応する中国語表現をまとめると表4になる。

表4 感慨・驚きを表す三形式に対応する中国語表現の出現数と出現率

	無標識の文	!	太……了	啊	計
ものだ	59 (73.7%)	16 (20.0%)	3 (3.8%)	2 (2.5%)	80
ことだ	4 (50.0%)	1 (12.5%)		3 (37.5%)	8
のだ	2 (22.2%)	4 (44.4%)		3 (33.3%)	9

表4から分かるように、今回の観察によれば、感慨・驚きを表す「ものだ」に対応する中国語の表現は無標識文が最も多い。感慨・驚きを表す「ものだ」の4つの構文形式をみると、種類Dは今回収集した「ことだ」と「のだ」と構文上の類似性ある。まず、感慨・驚きを表す種類Dの「ものだ」と「ことだ」「のだ」の構文上の特徴から見ると、種類Dの「ものだ」(以下「ものだD」と



文になっている。「ものだB」に対応する無標識の中国語文はこのような構成のものが3例、「ものだC」は2例ある。

- (41) a. 瓦の色も、焰の舌のように赤くなっているね。凄いものが出来たもんだ。(井伏鱒二『黒い雨』) (「ものだB」)  
 b. 瓦的颜色红得象火舌一样。真是厉害。(井伏鱒二《黒雨》)
- (42) a. それから車を備って、中学校へ来たたら、もう放課後で誰も居ない。宿直は一寸用達に出たと小使が教えた。随分気楽な宿直がいるものだ。(夏目漱石『坊ちゃん』) (「ものだC」)  
 b. 我雇了车，到达中学校，已经放学了，没有一个人，校工告诉我：“值班的外出办事去了。”这个值班的真够舒服的。(夏目漱石《哥儿》) (=6b)

「ものだB」と「ものだC」に対応する無標識の中国語文の多くは例(43)、(44)のような「居然」「竟(然)」などの副詞が使われている文である。「居然」は「(本来起こってはならないことや起こり得ないことが起こったり、容易になしえないことが実現したりする場合の)意外にも、なんと、よくも、まあ」という意味で、「竟(然)」は「(思いがけない状況が発生した場合の)意外にも、なんと、こともあろうに」という意味である。これは、このような無標式の中国語文では、「ものだB」「ものだC」が表す「感慨・驚き」のモダリティは反映されず、単なる意識によるものであることを示している。

- (43) a. 寺大工の家庭の事情は里子にはわからないにしても、よくも、まあ、小さい子をこのような寺へ出したものだと考えざるを得ない。(水上勉『雁の寺』) (「ものだB」)  
 b. 修建寺庙的木匠家庭里的情况，里子虽然不了解，但是竟把这样小的孩子送进寺院，显然是迫不得已的。(水上勉《雁寺》) (=4b)
- (44) a. ふしぎなことを恥ずかしがる人間もあるものだ、と克平は曾根の顔を見詰めた。(井上靖『あした来る人』)  
 b. 克平盯视曾根的脸，心想世上居然有这等为莫名其妙之事而害羞的人。(井上靖《情系明天》)

野田(1997:221)は「ことだ」や「ものだ」は事態に対する話し手の評価を示すときにしか用いられないが、「のだ」は例(45)のように、特に評価を伴わずに事態を把握した場合にも用いられる点で大きく異なると述べている。しかし、今回収集した用例にはこのような「のだ」はなかった。

- (45) ああ、ここにいたんだ。(野田1997:221)

## 7. おわりに

本論文では、日本語の「ものだ」「ことだ」「のだ」とそれに対応する中国語表現の記述および分析を行った。具体的には、「ものだ」「ことだ」「のだ」の三形式に共通する用法、すなわち、それらの「当為」用法と「感慨・驚き」用法に焦点を当て、それらに対応する中国語を観察・分析した。その結果は次のようにまとめられる。

中国語には「ものだ」「ことだ」「のだ」と類似する文末表現形式がないため、中国語訳文はほとんど意識によるものである。「感慨・驚き」を表す「ものだ」「ことだ」「のだ」は中国語の感嘆文に

対応するものが少しあるが、無標識の文になる時、「ものだ」「ことだ」「のだ」が表しているモダリティは中国語訳文では反映されていない。当為的な意を表す「ものだ」「ことだ」「のだ」は、それぞれ意味上では類似性のある助動詞と語気助詞に訳され、あるいは無標識の命令文に訳されているが、それらの「当為」的な意味は当該形式に備わった語彙的なものであり、日本語の三形式のように語用論的な条件が満たされた結果を表されたものではない。このことは、中国語には「ものだ」「ことだ」「のだ」のように、何らかの語用論的な条件が満たされて初めてその解釈が可能になるようなモダリティ形式の不在を示唆するものである。

### 注

- 1 九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程
- 2 本論文では、寺村(1984)、野田(1997)に従い、「ものだ」は形式名詞の「もの」に「だ」が後接し、それが一語化した助動詞、「ことだ」は形式名詞の「こと」に「だ」が後接し、それが一語化した助動詞だと見なす。また、「のだ」は準体助詞の「の」に「だ」が後接し、それが一語化した助動詞とする。なお、以下のa、bのような文末の「ものだ」「ことだ」は本稿の考察対象としない。
  - a. 「それ、それ。それがそうだ。お嬢さん、それは大貫さんの書いたものですよ」(井上靖『あした来る人』)
  - b. 今日の杉子さんにはとても敵わない。五人抜したのも同じことだ。(『友情』)
- 3 この分類は寺村(1984)、坪根(1994)、范(2012a)を参考にしたものである。
- 4 「無標識の中国語文」とは「中国語のモダリティを表す形式が含まれていない中国語文」を指す。
- 5 今回収集された用例にはAのような例はなかったが、范(2012a:36)には次のような例がある。
  - a. 重太郎は飯を口に入れながら、それをつくづくと見た。女房も年齢をとったものだ。
- 6 この構文は「Q ものだ」が単独で現れることもある。
- 7 「啊」はその直前の音がiで終わる場合、その音に影響されて起こった音便ya(呀)を表記する字。
- 8 「啊」は直前のu、ao、ouの音に影響されてwa(哇)と発音される。それを表記する字。

### 例 文 出 典

安部公房『砂の女』／石川達三『青春の蹉跎』／井上靖『あした来る人』／井伏鱒二『黒い雨』／大江健三郎『死者の奢り』／大岡昇平『野火』／川端康成『雪国』／島崎藤村『破戒』／太宰治『斜陽』／夏目漱石『こころ』／夏目漱石『坊ちゃん』／水上勉『雁の寺』／村上春樹『ノルウェイの森』

### 参 考 文 献

- 庵功雄他(2001)『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク  
 井上 優(2003)「「のだ」文と“的”構文」『中国語学』250, pp.264-274  
 木村英樹(2002)「“的”の機能拡張——事物限定から動作限定へ」『現代中国語研究』第4期, pp.1-13  
 佐治圭三(1991)『日本語の文法の研究』ひつじ書房  
 佐治圭三(1986b)「「～のだ」再説(続)——山口佳也氏・金栄一氏に答えて——」『日本語の文法の研究』ひつじ書房1991所収, pp.231-255

- 杉村博文 (1980) 「の」「のだ」と「是」「是……的」『大阪外国語大学学報』49, pp.75-89
- 杉村博文 (1982) 「「是……的」——中国語の「のだ」の文——」寺村秀夫他 (編)『講座日本語学 12: 外国語との対照Ⅲ』, 明治書院, pp.155-172
- 高梨信乃 (2006) 「助動詞「ものだ」「ことだ」——評価のモダリティを表す用法——」『神戸大学留学生センター紀要12』, pp.1-23
- 田野村忠温 (1990)『現代日本語の文法 I 「のだ」の意味と用法』和泉選書
- 坪根由香里 (1994) 「「もの」「こと」「の」に関する考察——「のだ」を中心に」『南山日本語教育』創刊号, pp.99-128
- 坪根由香里 (1994) 「『ものだ』に関する一考察」『日本語教育』84号, pp.65-77
- 坪根由香里 (1996) 「「ことだ」に関する一考察——そのモダリティ性を探る——」『ICU 日本語教育研究センター紀要』5, pp.45-62
- 寺村秀夫 (1981) 「『もの』と「こと」」『馬淵和夫博士退官記念国語学論文集』大修館書店, pp.743-763
- 寺村秀夫 (1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1992)『寺村秀夫論文集 I ——日本語文法集』くろしお出版
- 棚山洋介 (1992) 「文末の『モノダ』の多義構造」『言語文化論集第XIV巻第1号』, pp.19-31
- 野田春美 (1995) 「モノダとコトダとノダ——名詞性の助動詞の当為的な用法——」宮島達夫・仁田義雄 (編)『日本語類義表現の文法 (上)』, くろしお出版, pp.253-262
- 野田春美 (1997) 「「の (だ)」の機能」くろしお出版
- 范 碧琳 (2012a) 「文末の「ものだ」の意味に関する認知言語学的考察」『東アジア日本語・日本文化研究』第15集, 東アジア日本語・日本文化研究会, pp.27-41,
- 范 碧琳 (2012b) 「文末の「ものだ」の意味に関する認知言語学・語用論的考察」『東アジアと日本学』, 厦門大学出版社, pp.271-280
- 益岡隆志 (1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志 (2007)『日本語モダリティ探求』くろしお出版
- 守屋三千代 (1989) 「「モノダ」に関する考察」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』1号, pp.1-25
- 吉田茂晃 (1988b) 「ノダ形式の構造と表現効果」『国文論叢』15, pp.46-55

## A Contrastive Study on Japanese MONODA / KOTODA / NODA and Their Corresponding Chinese Words Used in Translation

Bilin Fan and Yoshiko Matsumura

Chinese learners of Japanese have trouble in mastering MONODA, KOTODA and NODA due to its various meanings, usages and functions. There are many previous researches on MONODA, KOTODA and NODA, but there are still few contrastive studies with Chinese equivalents. Therefore, this paper is intended to clarify the meaning and usage of MONODA, KOTODA and NODA by contrasting them with Chinese words and phrases used in translation. Data to be used are examples from a bilingual Japanese-Chinese edition of some short stories. Analyses of the large-scale data have clarified some similarities and differences between MONODA, KOTODA and NODA.